

共に働く 2018

Samansa Japan
サマンサジャパン株式会社

本社 〒745-0845 周南市河東町2-36 PHONE (0834) 32-1188 FAX (0834) 31-5956
福岡・別府・山口・徳山・岩国・広島・福山・岡山・松山・神戸・三河・長野・神奈川・サマンサリファーム・テイクサービス部
<http://www.samansa.co.jp> Email info@samansa.co.jp

株式会社
みらいジャパン
福岡県企業
会社

〒750-0066 下関市東大和町2丁目13番1号
TEL (083) 267-6161 FAX (083) 267-6163
<http://www.mirai-japan.jp/>



Samansa Japan
サマンサジャパン株式会社

ママへ



久しぶりに「ママ」って言葉を使います。ママが亡くなってから、35年が過ぎました。私は、まだまだ未熟でママのように子供たちにしてあげられているかわかりません。たった14年間のことでしたが、今考えてもママは素敵なママでした。
私は今二人の息子を育てています。ママが私にしてくれたこと...
私は自分の子に出来ていますか？子供が生まれたとき、とても幸せでした。生活が苦しくても、子供のくたくたのない笑顔や笑い声を聞くだけで、とても幸せで私はすでに、この子たちから親孝行をもらっていると思います。

山口営業所 桑陽病院勤務

田中みゆき

これからもきつとつつの笑顔をもらうことで幸せを実感できると思います。
反抗期も大変ですが、ママはきつと空から見守ってくれますよね。
私は、ママができなくてくやしかった分、長生きして子供たちの成長を見守っていきます。
ママ、長生きすること...ママへの親孝行ですね。
子供たちをりつぱに育てていけるように、成長を見とどけられるように頑張るよ。
ママ、ありがとう。

02

代表取締役会長兼CEO

小野 英輔

将来、今年を振り返った時、時代が大きく変化した年であったと思う年になりそうです。

04

JA長野厚生連
南長野医療センター

9業務のお手伝い

篠ノ井総合病院様

唐沢 清子様 副看護部長

鈴木 昇様 総務課 課長

06

フロアサービス
ナースエイド

丸山 恵理さん

待井 洋子さん／田中 智子さん

07

人間ドッグ
内視鏡洗浄

松本 理恵さん／岡田 幸子さん

横田 ひじりさん

08

受付
警備

内山 由美さん

岡崎 有祐さん

09

防災センター
清掃
ねむの木

相良 友紀さん

新井 麻莉さん

CONTENTS

社内交流誌
Vol. 85 季刊 サマンサ
サマンサジャパンコミュニティ情報チャンネル

Samansa Japan
サマンサジャパン株式会社

10

親子でサマンサジャパン

共に働き、ここで得たものとは

伊藤さん親子

母：伊藤 豊世美さん
娘：伊藤 愛梨さん

清掃業務9年目
清掃業務1年目

日當瀬さん親子

母：日當瀬 薫さん
息子：日當瀬 智也さん

病棟クラーク5年目
清掃業務2年目

12

上期事務社員研修

サマンサの『顔』として輝くために

14

見て! 聞いて!

私の自慢

長野営業所 酒井 のぞ美さん SQC管理室 森脇 猛室長

15

季刊サマンサに投稿してみませんか?

16

みらいジャパン

特別養護老人ホーム 寿海荘様 理事施設長 吉谷 修二様
だから みらいジャパン

明

けましておめでとうございます。

従業員の皆さんにおかれましては、希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのことと思います。

今年の干支は「戊戌（つちのえいぬ）」です。十干の「戌」は、「木」と武器を表す「戈」（ほこ）から成り、樹木が茂つて、思い切つて剪定しなくてはならない状態を表しています。そして十二支の「戌」は「戈」と「ト」（まさかり）から成り、武器で勢いを示すとか威勢を見せるという意味だそうです。

こうした「戊戌」の字義から、今年は「勢いを保つためには、思い切った決断が必要な年」と解釈されているようです。企業経営では、「さらなる飛躍を目指すには、発生する様々な問題や課題に対して、果敢に決断、処理することが必要な年」と言っておられる人もいます。

今、私たちを取り巻く環境は大きく変わろうとしています。景気の上向きと労働力人口の減少

平成30年を迎えて



か、常に先を見て早めに対応していかななくてはなりません。

こうした状況にあつても、我社はこれからも「縁あつて共に働く仲間となつた従業員に『明るく豊かな人生』を与える」という経営理念のために前進し続けます。そのために、企業理念にある「お客様の繁栄と幸福を追求」していかななくてはなりません。全員が「人間力」をさらに高め、「同じ頼むのなら、ぜひサマンサに頼みたい」と言っていただけるまで「売り物」を磨き続けていきましょう。

今年は、さらなる飛躍を目指して、私自身が強い信念をもつてこれらを実践し、皆さんを引っ張っていきます。皆さんもぜひ協力してください。よろしく願います。

平成30年1月

代表取締役社長

守政 和浩

新年明けまして、おめでとうございます。

小野英輔

代表取締役会長兼CEO



将来、
今年を振り返った時、
時代が大きく
変化した年であつたと
思う年になりそうです。

数年前、将棋の人工知能ポ
ナンザが、佐藤天彦名人に勝つ
ていた。まだ先だと思っていた
囲碁界でも昨年、世界最強の
柯潔九段にアルファ碁が勝つて
しまった。それも人工知能同
士が学び合つて知能を高めた
結果であると言う。背筋が寒
くなる恐ろしさを感じた。

我社の将来にどのような影
響を与えるのか、その対応策は
どうあるべきか、予想すらつか
ない苦難の時代が本当にやつて
来るのだ。

清掃ロボット(平成6年に大
型量販店でバイキングを行う清
掃ロボット・アガサを我が社が開
発し稼働させた。日本で初で
ある)が衆目を集めた時、あれ
は玩具だ、取つて代わられるこ
とは無いと私は思った。その考

え方、判断が自社を倒産に導
くと教えられた。

そのひとつの例は、銀塩式写
真フィルムがデジタル式写真技
術に淘汰されたアメリカのコ
ダックの倒産である。新業態を
甘く見て、対策を取らなかった
典型的事例である。これは事
業を多角化し安定を計ったか
らである。

我社も同じ様に多角化して
成長して来た。5つの事業を
柱とし、その下に多くの業務を
行うようにして今の発展があ
る。安定と成長を同時に求め
る戦略であつた。

今年からは、この戦略の基本
に、「人工知能(AI)にどう対
応すべきであるか」を置かなけ
ればならない。AIに業務を
取つて代わられる恐れが近い将
来起こるからだ。

新しく業態変更する時が来
た。必ず乗り切り、新しい繁栄
を築きたい。我社の将来を光
り輝くものにしたい。必ず出
来る。



初詣(遠石八幡宮)



初詣



徳山営業所



本社



広島営業所(鈴木常務作)

篠ノ井総合病院様

まずは、病院の特徴などを紹介してくださいいますか？

鈴木

「はい。地域医療支援病院として地域の先生方と連携を取りながら、急性期医療の対応をしています。開院当初から患者本位の医療の実践を目指して、今では当たり前になっている適温適食（温かい食事は温かいまま冷たい食事は冷たいまま）を適切な時間に提供する患者給食や、いつでも声をかけられるよう、オープンカウンターで、開放的なスタッフステーションなどに取り組んできました。今回の病院再構築においても、病院を訪れる方々が安心して、利用できるようにと検討してきました。」

唐沢

「今回の再構築で、患者さんにとつて使いやすい、優しい病院になりましたし、職員にとつてもスタッフステーション内の配置を統一して動きやすくなりました。良かったことの一つは、4人部屋の仕切りをカーテンからパーテーションに変更し、患者さんのプライバシー保持が



はなく『○○さん』と名前と呼ばれていて、チームの一員として一緒に頑張っているという感覚があります。本来の業務外のことをお願いしても『出来ない』とは決して言わないです。どうやったら出来るかを職員と一緒に考えてくれるので、頼もしいなと思っています。」

鈴木

「そうですね。患者さんから職員の一員として見られていきますし、サマンサさんから患者さんの声を頂いたり、提案をしてくださったりと、大変助かっています。たとえば、警備の業務は監視が中心ですが、利用者に優しく接していただき、専門性と利用者への対応力、両方を併せ持っているのがサマンサさんの良さだと思います。1社に業務をまとめるリスクもあるかもしれませんが、信頼しているからこそ、これだけ複数の業務をお願いしています。」

今回は、平成22年からお手伝いをさせていただいているJA長野厚生連 篠ノ井総合病院様を訪問し、弊社のサービスを導入するに至ったきっかけや、サービスへの評価、そして複数の業務を私達がお手伝いするメリットについて、二人のお客様にインタビューしました。

9 業務のお手伝い

出来るようになったことですね。」

鈴木

「病室の窓も広くなったので明るく快適に入院生活を過ごせるようになったと思います。」

サマンサジャパン導入のいきさつをお聞かせください。

鈴木

「当時の事務長と看護部長が、研修会でサマンサさんの企業理念を聞く機会があり、篠ノ井

唐沢

「強いて言えば、ベテランさんの心配りに比べると、どうしても新人さんとの個人差を感じます。業務としては問題なく出来ていますし、ベースは出来ているので、そこまで求めてよいものかと思いますが、病院という環境を考えると、新人さんに気配りなど配慮の姿勢が高まると、プラスアルファにつながると思います。」



副看護部長 唐沢 清子様

総合病院の基本理念と共通するものがある、と感じたのが始まりだと思います。フロアサービスを導入することで、職員の接遇に対する意識をさらに高めましよう、と事務長が言うていたのを覚えています。」

唐沢

「看護師は患者さんのもとに」という考えのもと、ベッドサイド看護をより充実させるために、内部でやっていた業務を外部に委託することになった際に、フロアサー

サマンサが複数の業務に入っていることによる、病院様のメリットは？

鈴木

「それぞれの業務間で連携を取っていただいていますので、一人の患者さんをご案内するにしても、フロアサービスの方、警備の方、場合によっては清掃の方も含めてみ



今年で創立50年を迎えられたJA長野厚生連南長野医療センター篠ノ井総合病院様。地域の強い要望で昭和42年4月に30床の病院として開設。創立以来の基本理念である「患者本位の医療の実践」を常に意識し、長野市南部の急性期中核病院として現在では433床を有する医療施設となりました。病院再構築のための第一期工事、秋には竣工し、免震構造の本館を中心に快適な外来診療や入院生活を過ごしてもらう環境が整いました。



総務課課長 鈴木 昇様

ビスでの実績があつたサマンサさんに他の業務も協力してもらいうことにしました。」

ご利用者様や職員様からのサマンサへの評価を忌憚なくお聞かせください。

唐沢

「各病棟にしっかりと入っていただいているので、利用者からも職員からも『サマンサさん』で



なさんで対応いただいています。これは別々の会社に業務を頼んでいたら生まれてこない状況だと思えます。それに、伝えたい情報も担当者一人に伝えたら他の全ての業務に行き渡るのでありがたいです。」

唐沢

「そうですね。看護補助も同じで、多くの人数がいても伝達事項が素早く正確に伝わるのは凄いなと思います。」

最後にサマンサジャパンへ、一言お願いします。

鈴木

「業務同士の隙間がしつかりと埋まっていることや利用者への対応の仕方など、現場を見ればサマンサジャパンがどんな会社なのか分かります。これからもよろしくお願いします。」



松本 理恵さん

③ 人間ドッグ

松本 理恵さん／岡田 幸子さん

おもてなしの気持ちを込めて
お客様をお迎えしています。



岡田 幸子さん

人間ドッグご利用者の受付や案内、検査準備、ベッドメイク、昼食の配膳・下膳、備品の整理整頓、身体測定などを行っています。

サマンサの清掃スタッフから

は、より綺麗にする清掃方法を、ナースエイドからはベッドメイキングを、フロアサービスからは良い接遇の方法をと、様々な技術を他業務のスタッフから教えてもらえるのがとても助かります

し、サマンサの強みだなと思います。やりがいはいち利用者様から直にいただく「ありがとう」の言葉です。人間ドッグに毎年来られる方が私たちのことを覚えて

いてくださっている事もあり、とても嬉しいです。病室とはまた少し違った「ホテルのようなおもてなし」や、ご利用者が過ごしやすい環境をつくることを心がけています。



横田 ひじりさん



④ 内視鏡洗浄

横田 ひじりさん

責任のある仕事。
影の動きも見逃しません！

内視鏡洗浄が主な業務です。内視鏡は、ご利用者の身体の中に入るものなのでしっかりと、そして丁寧に洗浄する必要があります。とても細やかな意識と慎重さが求め

られる仕事です。

洗浄機は一度動かすと25分間取り出せないなので、限られた数の内視鏡を素早く、タイミングよく洗浄することが重要となります。そのために、看護師さん

と検査予定の情報を共有するとともに、検査室の外から先生や患者さんの動きに気を配りながら作業をし、少しでもスムーズに検査が進むように努めています。スピードやタイミングが重要

で、また高価な精密器具を扱うので常に緊張していますが、スタッフルームに戻って他のスタッフに話を聞いてもらったり、情報共有したりするとほっとします。仲間がいるから頑張れます。



丸山 恵理さん

① フロアサービス

押し付けではなく、寄り添うように、
必要なときに必要なものを。



フロアサービスの仕事は、受付や外来・病棟へのご案内、歩行器や車椅子の介助、駅までの距離や近隣の情報の提供など、ご利用者が病院にいられてからお帰りになるまでのお手伝いをすることです。

午前中は、主に外来のご利用者様に寄り添って、午後から

は歩行器や車椅子の整理を中心に院内巡回をしています。患者様から「ありがとう」や「頑張っ

てね」の声をダイレクトに聞けるのはとても嬉しいです。院内のあちこちにサマンサの仲間がいるので助かります。例えば、病棟内に残されている外来用車椅子があれば、

ナースエイドや清掃スタッフからすぐに連絡があります。サマンサスタッフ全員で病院内を巡回しているような感じです。私たちフロアサービスが忙しそうにしているとご利用者が声をかけにくくなってしまいます。サマンサの仲間と協力し合うことで、ご利用者が必要とされるとき

に寄り添うことができる体制づくりに努めています。

今後はフロアサービスとしてのレベルをあげるために手話を覚えたり、外国語を話せるようになりたいです。まだまだ出来ることは沢山あると思うので、最高のフロアサービスが提供できるように頑張ります！



丸山 恵理さん



田中 智子さん



待井 洋子さん

② ナースエイド

田中 智子さん／待井 洋子さん

資格はなくても、
ご利用者様や職員様の助けになりたい！

ナースエイドは各病棟に2名ずつ配置されていて、清潔ケア、入浴介助、患者様の誘導などの看護師のお手伝いをはじめ、環境整備、ベッドメイク、配膳等、多くの業務に対応しています。入浴補助や清潔ケアなどご利用者様に直接触れる機会がある時は、

その都度、緊張感を持って接しています。

また、ナースエイドという存在はご利用者様から気軽に声をかけていただける存在のようです。頼まれごとや質問をいただくこともあるのですが、少しでも早く解決できるよう皆で協力して取り組んでいます。ス

タッフみんながプロ意識を持っており、チームワークも良く、全員で『日本一のナースエイドになること』を目標にしています。また、サマンサスタッフは業務が違っていても連携が出来ているので、車椅子の受け渡しや患者様の誘導などがとてもスムーズです。

資格はないのですが、「人の役に立つ仕事したい」と思い入社して、この仕事に就く事ができました。サマンサに入るとは意識したことがなかったのですが、自分が笑顔でいれば相手からも笑顔が返ってきます。ご利用者様や職員様、仲間との笑顔の連鎖が嬉しいです。



⑦防災センター

いざという時のために日々の訓練は欠かせません!



PCモニターでの監視業務や火報、コールが鳴った際の対応が主な業務です。その他、鍵の貸し出しや救急車出入り口の管理、電子鍵の管理も防災センターの役割です。病棟以外のトイレやエレベーターの

非常ボタンのコールは全て防災センターに繋がるので、火災報知器が鳴った際やコールを受けた際は、場所を特定して、館内を巡回している担当が急行します。月に一回はシミュレーション訓練を行い、空いた時間には教本

を読んで基礎知識を高め、いざという時のために備えています。誤報でしたが、本当に火災地震盤が鳴ったときにしっかりと対応出来た時にやりがいを感じました。本番に近い訓練を重ねた結果だと思います。

社内の風通しはすごく良いです。サマンサは女性が多く、上司や仲間が身だしなみや姿勢などの気付きを知らせてもらえます。お客様に不快な印象を与える前に気付かせてもらえるのがありがたいです。



相良 友紀さん

⑧清掃

相良 友紀さん

納得がいくまで、もっと綺麗にしたい!



業務は清掃です。病室・ナースステーション・診察室・洗濯室・浴室、トイレなどの清掃、また、廃棄物の管理、分別、処分を分別表を見ながら、細心の注意を払って、行っています。

退院された後の病室清掃に入るので、ナースエイドからの

速やかな退院情報の連絡がとても助かっています。退院時間に合わせて早朝に清掃対応をしたり、病棟によってはナースエイドに清掃をしてもらったりと臨機応変に対応できるのは、病院内に複数の業務が入っていることの強みだなと思います。警備スタッフからも「廊下が汚れてい

るので清掃をお願いします」と、連絡が入るので常に院内を綺麗に保つことが出来ます。また、私たちは病院が建て替わった時の最も美しい状態を知っています。だからもっともっと細かい所に手を入れて、さらに綺麗な病院にしていきたいです。清掃スタッフは毎日対応する

病棟が変わるので、お会いするご利用者様も毎回変わります。そうすると、交わす会話も毎日違います。それに対応するのは大変でもありますが、今ではそれが楽しみです、ご利用者様からいただく「いつも綺麗にしてくれてありがとう」の言葉が仕事の励みになっています。

⑨ねむの木

新井 麻莉さん

いつも支えてくれる仲間がいます。

業務は、病院内のレストランで注文をお聞きしたり、料理を運んだりすることが中心です。もともとは清掃スタッフが希望でしたが、縁あってこのレストラン業務に就かせてもらっています。子供が2人いるのですが、ここ篠ノ井総合病院で出産をしました。

その時に清掃スタッフに優しく声をかけてもらったことがとても嬉しくて心に残っていたので、清掃スタッフ募集のチラシを見て申し込んだのがきっかけでした。飲食関係の仕事は初めてで、慣れない業務に落ち込むこともあります。スタッフルームに戻る

とナースエイドのスタッフが頻繁に声をかけてくださるので、とても嬉しいです、ほっとします。業務を越えて、支えていただいていると感じます。私もサマンサの一員であるということを意識して日々の仕事に励みます。

⑤受付

内山 由美さん

仲間の姿がお手本になる。自分の成長に繋がります。

私たちは、新患受付や保険証の確認、入院保証書の預かり等の受付業務全般を担当しています。

様々な業務の仲間が近くにいるので、ご利用者様からの様々な依頼に対して、フロア

サービスやナースエイド、警備と連絡を取り合いながら素早い対応ができます。また、汚れがあれば、清掃スタッフがすぐに駆けつけてくれます。仲間はもちろん、病院の職員様もあたたかく接してくださるので本当

にありがたいと感じています。サマンサでは、「接遇を大切にする」ということを学びました。言葉遣いをはじめとしたマナーが日常生活でも役立っていると感じています。研修を通して仕事のスキルを見に付けるだけでなく、自

分を高めていくことができました。失敗したな、うまくいかないな、と悩むこともありますが、いつも仲間に話を聞いてもらっています。業務を越えて、親身に話を聞いてくれる先輩達がとても心強いです。



内山 由美さん



岡崎 有祐さん

⑥警備

岡崎 有祐さん

他の業務との連携が取れていることが強みです!



目中は院内を巡回し、夜間は外部に繋がる扉を全てチェックしています。院内を頻繁に行き来して制服を見せることで、不審者が入ってこないようにすることも重要な役割です。巡回の時には設備や消火器の点検なども行います

し、休診日や平日夕方以降の入館管理やお見舞い、救急受診で来院された方の対応もしています。フロアサービスの言葉遣いや接し方がご利用者様と接する際の手本となっています。また、巡回中に汚れを発見したと

きには、清掃スタッフがすぐに対応してくれます。仲間同士なので連絡がとりやすく、業務がスムーズだなと感じます。業務間での応援体制もあり、警備スタッフが清掃やフロアサービスの際の手本となっています。本人のスキルが身に付くのは

もちろん、お客様にもより良いサービスがご提供できると感じています。今後の目標は警備のスタッフ全員が『施設警備業務検定2級』を取得することです。日々の業務の理解を深めてより良い警備を目指します。

お客様のために、
理念への理解を
深める

全国から21名の事務社員が、本社3階の大会議室に集まりました。今年入社した3名の事務職員の自己紹介の後、小野会長による「理念教育」が始まりました。

「私たちの使命は、企業理念である『お客様の繁栄と幸福を追求していく』ことに尽きます。その実現のためには、我社を支えてくれている事務社員の皆さん一人一人の協力が欠かせないのです。理念の実現のため、是非とも力を発揮していただきたいのです。」

最先端の現場で活躍しているスタッフを支える事務社員として、サマンサの掲げる理念への理解を「層深めてほしい」。その願いから、小野会長は、「売り物」である「業務」と「付加価値」をSQCで磨き続け、「半歩先」の進化をめざしていくこと、従業員一人一人があらゆるものへの感謝の気持ちを持ち、親孝行や礼儀を大切に実行しながら、自らの人間力を高めていくことの2点を重点に、これまでの我社の歩みや自

サマンサの『顔』として輝くために

上期事務社員研修

サマンサジャパンの根幹は、「人づくり」にあります。一人一人の事務社員が、受付や電話でのお客様対応をはじめとした幅広い業務において、サマンサの『顔』として、さらに輝き活躍できるよう、絶えざる教育研修が行われています。今回は、9月20日に本社で開催された上期事務社員研修をレポートします。

身のエピソードを踏まえてお話をされました。

この2点を真摯に実行し続けたことにより、お客様から信頼を頂き、今では多くの業務が、お客様からの「名指し」受注であることが紹介されました。

コミュニケーションを
広げ深める
聴き方・話し方

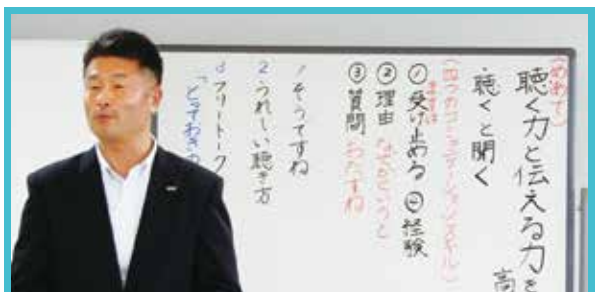
続いて、一年間の長期社会体験研修で県内の小学校からサマンサに派



小野会長



右田先生



遣されている右田先生による「聴く力と伝える力を高めよう！」が実施されました。事務社員として必要な「コミュニケーション」を広げて深める方法を、4つのコミュニケーションスキルを実際に使いながら研修しました。

始めに、右田先生から5年前にサマンサで研修をされた、現宇部市立常盤小学校の校長藤永先生の学校についてのお話がありました。藤永先生は、サマンサでの研修を通して、来校者の方々に対する接し方や迎えの仕方が大きく変わったそうです。本社の事務社員の皆さんが、来社されるごなたに対しても、分け隔てなく同じように丁寧な接遇される姿を見て、自分自身の学校での姿を反省されたそうです。右田先生が5月に常盤小学校を訪問した際、校内で次々と出会う教職員の挨拶の仕方がとても感じがよく、感銘を受けたそうです。

- 1 まずは思いを受け止めながら聴く
受容する
- 2 理由を添えて話す
納得をもたらす
- 3 相手の思いを引き出す質問をする
話を深め広げる
- 4 自分の思いや経験を交えて伝える
相手の理解が深まる

【聴く力】と【伝える力】を高める
4つのコミュニケーションスキル



守政社長



この4つのスキルを使ったグループワークを通して、人間関係づくりを一層円滑に進めていくことができることを学びました。最後に、

「お客様からチャンスコールをいただいたときなど、先方のお気持ちを想像しながら、誠実にしっかりと受け止めることが大切です。今日研修したことをお客様対応や社員・スタッフとの関係づくりに生かしてください。」

とのメッセージで締めくくられました。



事務社員にとつての
「商品」とは？
「付加価値」とは？

守政社長による研修では、事務社員にとつての「売り物」について話されました。正確な会計処理や事務所社員が働きやすくするためのサポートを行うことは、社内の人だけではなく、お客様やお取引先にご迷惑をおかけしないことであり、信用・信頼に繋がることだと話されました。また、事務社員にとつての「付



加価値」は何か。事務社員の皆さんは、電話や来客で最初に対応する、いわば会社の顔です。特に初めて電話をくださる方やお見えになる方はきつと不安です。サマンサの社員は「全員営業マン」です。皆さんも営業マンとして、輝くサマンサの『顔』として、少しでも感じのよい応対をしましょうと話されました。

最後は研修生達の「ありがとうございました」と元気の良い、笑顔あふれる挨拶で研修を終えました。



ご利用者様一人ひとりに合わせた日常生活の介助や機能訓練、健康管理等をはじめ、生きがいのある生活が出来るようにと趣味クラブやサークルも充実。また、四季折々には学生や保育園児による定期訪問、お花見や夏祭りや運動会、クリスマス会など数々の催し物を行っている特別養護老人ホーム 寿海荘様。

今回は、寿海荘で施設長を務めていらつしやる吉谷様にみらいジャパンについて伺いました。

みらいジャパンを導入した経緯や導入後の変化

私が施設長になった頃は他の委託業者に清掃を頼んでいたのですが、トイレの臭いが気になっていました。

トイレはご利用者（入居者）様だけではなく、職員やお見舞いに来たご家族の方々も毎日使うもの



几帳面な性格で、普段から掃除や整理整頓が好きな私には合っているだろうと思い、この仕事を始めました。

シミがついていたら染み抜き作業をしつつ、勤務時間終了までに終わらせなければならぬたくさんの作業を行うのはいつも時間との勝負です。だけど、ご利用者様には常に綺麗なものを身に着けていたきたいと思っています。

やりがいのご利用者様からの「綺麗にしてくれてありがとう」という言葉です。施設長をはじめ、職員のみなさんも声をかけてくださるので感謝しています。

みらいジャパンの仲間や社員の方がいつも気にかけてくれるのはとても心強いです。



だからみらいジャパン!!

なので常に清潔に保ちたいと考え、どうしたものかと悩んでいました。そんな時、経営母体である医療法人社団青寿会 武久病院で清掃を請け負っていたみらいジャパンさんの評判を耳にし、お願いすることにしました。

みらいジャパンさんに清掃をお願いしてからは、

特別養護老人ホーム
寿海荘



感動創造企業
株式会社 **みらいジャパン**



トイレの臭いがなくなったのでとても驚きましたし、なにより施設が大変快適になりました。

そして、みらいジャパンのみなさんはいつも気持ちの良い挨拶をしてくれるんです。

挨拶って当たり前のことなのですが、誰に対してもいつも挨拶をしている姿を見ると「おお！さすがだなあ。」としみじみ思います。

きつと教育が行き届いてるんでしょう。そう思うたきっかけは他にもありました。

リネンの業務請負を別の会社からみらいジャパンに変更した際、前の会社から引き続きみらいジャパンで働くようになった社員がいました。みらいジャパンの二員として働くようになってからその方の勤務態度が変わったのです。

その方はとてもまじめで仕事出来るからこそ、それを他のスタッフにも求めてしまい、本人も気づかないうちに周囲を厳しく指導していました。

ところが、みらいジャパンさんに入ってから、仲間と打ち解けてより「層仕事をこなしてくれています。

今までの経験上、人は変わらないと思っていたましたが、人ってこんなにも変わるのだなとトイレの件



理事施設長

吉谷 修二様

に続いてまたも驚かされました。

改めて教育の大切さを感じました。

みらいジャパンさんは仲間同士や、上司部下など、どんな関係性の中でも「教え、そして育てる」ということが出来る会社だからこそ、安心して仕事をお任せできます。

現在、施設内では、「オムツゼロ運動」を行っています。

私がいつか介護を受けるようになった時に、もしオムツを履くとなったら抵抗があります。きつと入居者様もそういった思いは少なからずあるでしょう。それに、女性は構造上不衛生にもなりやすいので、履かなくてすむなら、履かないに越したことはないと考えています。職員には研修を受けてもらい、ご入居者様には最低でも一日1500ccの水分補給を心がけて、安全面に配慮した歩行訓練を実施するようになってから、私が施設長になった7年前と比べると、9割だったオムツ使用率が今では約半分になりました。

今後の目標は使用率3割です。

そのためにも、みらいジャパンさんの教育法を見習いながら、職員一同が協力して、ご入居者様の過ごしやすい環境を提供していきたいと思っています。